

# 第28回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会

## 組手A級の見所

### 組手A級女子無差別級（選抜5名）

2017年度、フルコンタクト・テコンドー女王決定戦である。



澤田侑輝乃



市坪 愛



前根奏子

総見時の仕上がり状況は、市坪 愛（東京江東テコンドークラブ）が一番良い。

3連覇を果たした際の蹴りの鋭さが戻っている。問題はスタミナである。

市坪コメント「今年で6回目の出場を迎えられること、まずは感謝したい。

テコンドーを通じて得られることが、学生の頃とは異なっていることを実感します。

観ている方、応援して下さる方に少しでも勇気を与えられるような試合を展開します。」

2連覇を狙う澤田侑輝乃（神奈川大学横浜校体育会テコンドー部）の前に立ちはだかるのが、

前根奏子（横浜鶴見テコンドークラブ）である。

前根は、前年度、全日本FT大会において新人の澤田に初めて破れ（過去の対戦成績は前根の2勝）、2連覇を阻止されたが、まったく不本意な内容であった。

前根は、大会10日前の練習で、骨が硬いことで恐れられている男子選手Nによって利き足を打撲。

前年度女子チャンピオンとしての責務を果たすべく出場はしたものの防戦一方で敗退。

怪我が悪化し、蹴武型A級も棄権。

最優秀選手賞を5大会連続受賞した記録をもつ前根にとって初めての試練であり、屈辱的な大会となった。

このような事情があったため澤田と前根は、双方がベストの状態での雌雄を決する必要性があった。

澤田は、前根が怪我をしたから優勝したわけではないことを証明しなければならないのだ。

総見時、両者はまったく互角の気迫に満ちたシャドー組手で対決。

シャドー組手でありながら、両者から発せられる「気」が周囲を圧倒していたかのように観じられた。

全日本FT大会史上初となる女子A級選手による第1試合、後楽園ホール・リング上での対決が実現する。

この勝者が勢いにのり優勝する可能性が高い。

澤田コメント「昨年、全日本大会の優勝を果たしましたが、今回もチャレンジの気持ちを忘れず、

一試合一試合を大切に組みたいと思います。

また学生生活の締めとなりますので悔いの残らないよう勝ちにこだわって臨んでまいります」

前根コメント「今年は推薦での出場です。

挑戦者として気持ちを新たに、試合に挑みたいと思います」